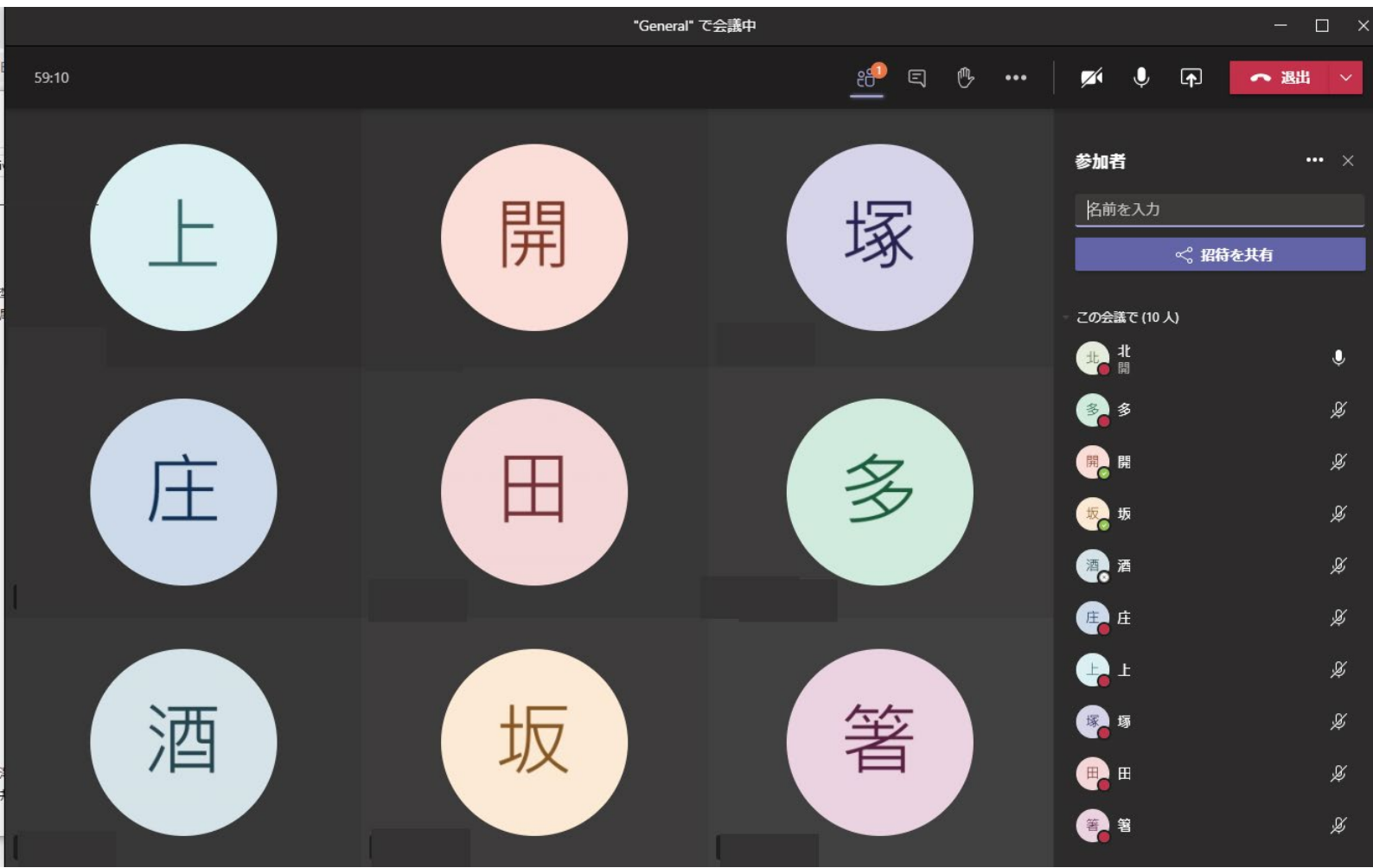


20m05H発表記録

準備



教材づくりの発想

「General」で会議中

01:07:34

制御を要求

参加者 1

退出

参加者

名前を入力

招待を共有

この会議で (10人)

全員をミュート

北 開

多 多

開 開

坂 坂

酒 酒

庄 庄

上 上

塚 塚

田 田

箸 箸

1/1 ページ 1073 文字 日本語

フォーカス 閉 目 100%

+2 酒 上 開 坂 箸 田 庄

自動保存 第5回2... 検索

ファイル ホーム 挿入 デザイン レイアウト 参考資料 差し込み文書 校閲 表示 ヘルプ

貼り付け

M.S. 明朝 (本文C) 10.5 A^x A^y A^a A^b

B I U L X₂ X₃ X₄

クリップボード フォント 段落 スタイル 編集 音声 秘密度 エディター

あア重 あア重 あア重

標準 行間詰め 見出し 1

検索 変換 選択

共有 コメント

・上からの道＝教科内容の教材化^{e1}

・下からの道＝素材の教材化^{e1}

(2) その他のネット資料から長所・短所^{e1}

・上からの道と下からの道の差異^{e1}

上からの教材と下からの教材の差異はカリキュラム内容に体系性がある。上からの道は、組織的・系統的方法であるのに対し、下からの道は非組織的方法である。つまり、カリキュラム内容の体系性を保ったまま、児童・生徒の興味・関心を喚起するような素材を後から付加することで行われるのが上からの教材であり、児童・生徒の興味・関心を喚起する素材を後から付加することで作られる、結果的に体系性が相対的に低くなるのが下からの教材である。^{e1}

→どちらも児童・生徒の興味・関心を喚起するような素材を教材に取り入れるとされている。^{e1}

(3) 自分の意見^{e1}

ネットからの資料やデキストにも教材づくりのメリット・デメリットは記載されていることが確認できなかったが、上記のように資料をまとめた結果、次のようなものがメリット、デメリットになると考えた。^{e1}

・教材作りメリット^{e1}

→児童・生徒の興味・関心を喚起するような素材を後から付加することができる。^{e1}

・教材作りデメリット^{e1}

→教科書のように全てを記録するわけではないので内容がしっかりしていない可能性がある。^{e1}

(4) 出典(文献名、url等)^{e1}

<http://www.urakuguei.ac.jp/~yamadama/papers/paper22.pdf>

各班ワークシート複数資料用（まとめ）

1) (班内) まとめ

班のテーマ（教材作りの発想）

■テキスト（新しい時代の教育方法）

まとめ（ ）

- ・教材の作成方法には「上からの道」、「下からの道」がある。
- ・「上からの道」は教科内容の教材化
- ・「下からの道」は素材の教材化

■肯定的 web（ ）

まとめ（ ）

教材作りの発想について肯定的、否定的に記されている Web ページが存在しなかった

2) 全体発表（模擬授業）を聞いて、自分の班の取

り組みについて感じたことをのべよ。

■

■5段階班の自己評価（ ）

■否定的 web（ ）

まとめ（ ）

教材作りの発想について肯定的、否定的に記されている Web ページが存在しなかった

■班としての要約

まとめ（ ）

- ・教材の作成方法には「上からの道」、「下からの道」がある。
- ・「上からの道」は教科内容の教材化
- ・「下からの道」は素材の教材化

キーワード 10～20 語 明日中に 概念系統図

- ・教材・教科書・オリジナル教材・上からの道
- ・下からの道・教材作成・素材の教材化・教科内容の教材化
- ・組織的・系統的・
- ・
- ・

2**) 今日の授業で、気づいたこと、感じたことを

のべよ。

教材の作成をしてみたいと考えていましたが、学校の教師は内容を限なく教えなければならぬのでたしかにオリジナル教材を作成するのは難しいを考えました。

メディアとしての教材

20m05H02メディアとしての教材R管尾05.docx - Word

ファイル ホーム 挿入 デザイン レイアウト 参考資料 差し込み文書 校閲 表示 ヘルプ Acrobat 実行したい作業を入力してください 共有

MS 明朝 (本) 10.5 A A Aa 7 冊 A

B I U abc X₂ X² A a A (Z)

フォント

段落

スタイル

あア亜 あア亜 あア亜 あア亜
標準 行間詰め 見出し 1 見出し 2

検索 置換 選択 編集

Adobe PDF の署名作成および共有を依頼 Adobe Acrobat

教育方法論 m 第5回 テーマ「メディアとしての教材」2班 番号

(1) 「新しい時代の教育方法」から

全体の要点●能動的学習の一環としてメディア教育を行う上で教科書はとてよい教材になりえるが、反対に検定済みの教科書を批判することにもつながる可能性をはらんでいる。

ポイント 1) 他の教材と比較する、メディアリテラシーの素材として教科書を活用することが有用。

2) 物語の原作と教科書文との違いをみて、各表現の特長に気づき批評することができる。

3) メディア教育は学校教育の狭さを打ち破る契機となりえるかもしれない。

4) 教科書というメディアについて、その自由を尊重する・自由を制限し秩序を守るという対立がある。

(2) ネット資料「第1章 4. 2. (2) メディア・リテラシー教育の教材を改善・充実させる」から

全体の要点●インプットに関わるものだけでなく、アウトプットに関わるものも含めてメディアリテラシーとし、双方を伸ばすことが求められている。

ポイント 1) 受け手だけでなく、「話す」「書く」といったリテラシーの能力を向上させなければいけない。

2) 情報を批判的にみるだけでなく、それらを活用し新たに価値ある情報を創り出す活動と併せて育成していくことが可能。

3) 画像を見て文章にする、情報を適切な媒体と適切な表現方法を用いて伝達することの訓練。

4) 幅広いジャンルにおいて視覚的作品を教材にすることができる。

(3) ネット資料「現代におけるメディア教育の展開と課題」から長所・短所

全体の要点●メディアは内容や目的、または方法のどちらをも表すことができる。それらの教育をよするためには指導内容を明確にせねばならない。

1/2 ページ 1218 文字 日本語 140%

"General" で会議中 01:20:23

答

🔊 🎤 🖥️ 📞

教材概念の拡張・電子黒板

01:36:40

"General" で会議中

第5回予習課題.docx - Word

ファイル ホーム 挿入 参照 デザイン レイアウト 参考資料 差し込み文書 校閲 表示 ヘルプ 何もしません

MS 明朝 (本文) 10.1

B I U abc X₂ X²

フォント

段落

スタイル

あア亜 あア亜 あア亜 あア亜 あア亜 あア亜

標準 行間詰め 見出し1 見出し2 表紙 題紙

検索 西暦 漢字

切り取り 貼り付け 書式のコピー/貼り付け クリアボード

第5回予習課題.docx

教育方法 m 第5回 テーマ「教材概念の拡張・電子黒板」3班

(1) 「新しい時代の教育方法」から

全体の要点●子どもたちの共同的・対話的な学び合いを志向する授業では、子どもたちが学び合うための学習材概念へと転換し、それに電子黒板などの ICT が使われている。↓

ポイント D 知識を教えるための教材概念から、子供たちが学び合うための学習材概念へ

2) 子どもの一見ズレているような発言・文章は学び合いが成立する学習材となりえる

3) 電子黒板は学校 ICT の設備をめざす文部科学省の方針で急速に普及している

4) 子供の関心や理解を深めている

(2) その他のネット資料から長所・短所

全体の要点●教師が一人一人教えるのには限界があり、だからこそ生徒同士で教え合う学習が大事になってきており、その時使う教材は子供の興味や関心を引き教材でなければならない。↓

ポイント D 教師が一人一人と直接から関わって教える「個に応じた指導」への限界

2) 「協同」こそが個人の学習の成立にとって必要であり、一人一人が盛うからこそ学習に深まりと向上が見られる。

3) 教材の基となるのは人類がこれまで蓄積してきた文化ないし文化財であり、教師はその「文化を教材にするのが仕事」

4) 子どもの興味や関心を引き教材

(3) その他のネット資料から長所・短所

全体の要点●遠隔学習では現在電子黒板やタブレットを用いた授業が多く、メリットとしては他者の意見と多く触れ合うことができる。ただし、教員自身のスキルアップや授業中の臨機応変な対応が求められる。↓

ポイント D 電子黒板やタブレットを用いて生徒同士で意見交換

2) 海外の学校との交流学習

3) 他者の意見と触れ合うことによる課題解決までの思考力や他者を思いやる気持ちの向上

4) 教員のスキルアップや臨機応変な対応

参加者

名前を入力

招待を共有

この会議で (10 人) 全員をミュート

北 北 開

多 多

開 開

坂 坂

酒 酒

庄 庄

上 上

塚 塚

田 田

箸 箸

+2 開 坂 塚 庄 箸 酒 田

刊のテーマ(教材概念の転変と電子黒板)

四テキスト

まてめ(子どもたちが学び合うための学習材としてICTが使われている)

- ・教材概念から、学習材概念へ
- ・子どもたちの思考を促すもの
- ・ICTが活用されている
- ・子どもの関心や理解を深めている

web(「学び合い」の基盤について)

- ・まてめ(生徒同士で教え合う学習が大事であり、子どもの興味・関心を引く教材)
- ・「個に応じた指導」への限界
- ・「つながり」こそが「個」の学習の成長にとって必要
- ・子どもの興味・関心を引く教材
- ・「文化を教材にする」のが教師の仕事

web(「つながり」学習とは? メリット・デメリットまてめ(矢張り、まてめ(教材の活用と活用))

まてめ(他者の意見を多く知ることが出来るメリットと教員のスキルアップなどのデメリット)

- ・電子黒板やタブレットを用いて生徒同士で意見交換
- ・海外の学校との交流学習
- ・教員のスキルアップ
- ・他者の意見と知ることが出来ることによる課題解決までの思考力や他者を認める気持ちの向上

2) 刊の要約

まてめ(学び合うための学習材として教材概念は転変している)

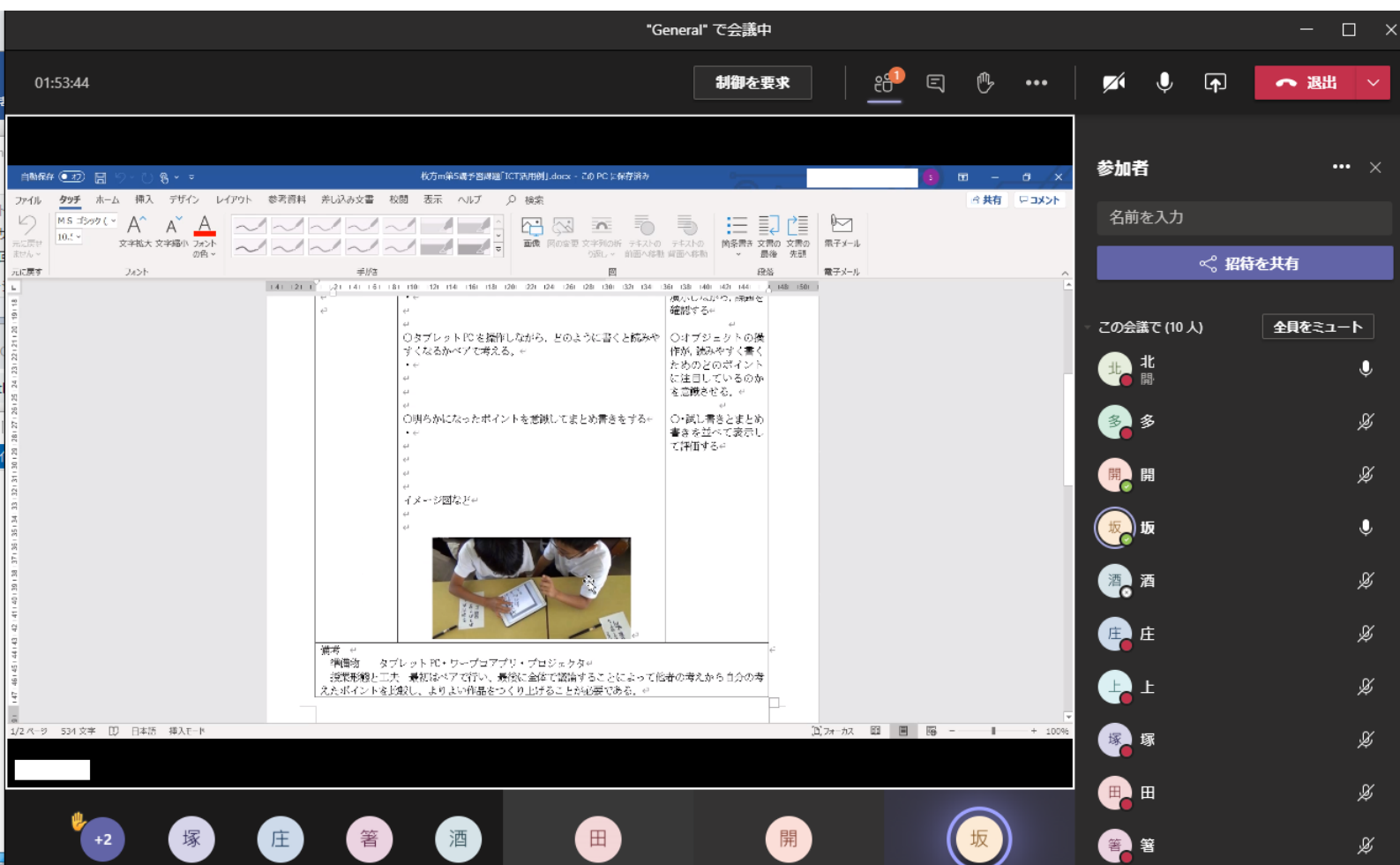
- ・子どもの一見ズしているような発言・文章も学習材となる
- ・ICTなどの学習材も増えてきている

2) 全体発表(教材概念)を聞いて、自分のクラスの
目録や意見書について感じたこととのべよ
教材概念はここ最近でどんどん変わ
っているのかもしれない。

2) 刊の発表で聞いたこと、
感じたこととのべよ。
子ども達の意見も学習材となり
入るのびし、カリキュラムにないとい
けないと気づきました。

刊番号 3 学第番号 19045 氏名 田中康男

ICT活用例



各班ワークシート (模擬授業まとめ)

改善したこと、すべきことを書くこと (指導案の要約ではない)

1) (班内) まとめ

班のテーマ (ICT 活用例)

■ 学年・単元・本時の内容 (提示する教材)

- ・小学校 6 年生
- ・国語 「書写」

■ 目標、内容・指導の概略等

- ・用紙にあった文字の西己列を生徒たちで考えて、そのポイントを理解し、作品づくりに生かす。

2) 全体発表 (模擬授業) を聞いて、自分の班の取り組みについて感じたことをのべよ。

- もう少し細かな説明で分かりやすく伝えることができればよかった。

2*) 今日の授業で、ポイントと思ったことをのべよ。

- 図工の学習にもつながる教科横断的な学びとなっている

■ 教材・板書計画、評価の観点・規準等

- ・タブレット PC の画面上で操作し、字形にこだわりすぎることなく用紙全体との関係に注意することを評価する。

■ 工夫した点、出典等

- ・未来の学びにつながる ICT を活用した授業づくり

■ 模擬授業を実践してみて感じたこと、わかったこと

- ・授業の最初と最後を比較することで児童の進歩を実感することができた。

2**) 今日の授業で、気づいたこと、感じたことをのべよ。

- ICT により修正ができなかったことでも簡単に修正でき、さらに編集までもできるようになって、教育は進化していると感じた。

ICT活用例

[illegible]

各班ワークシート (模擬授業まとめ)

改善したこと、すべきことを書くこと (指導案の要約ではない)

1) (班内) まとめ

班のテーマ (ICT活用例)

■学年・単元・本時の内容 (提示する教材)

数学: 微分 積分

■目標、内容・指導の概略等

ICTを活用して
微分係数の図形的意味の理解
をしよう。

2) 全体発表 (模擬授業) を聞いて、自分の班の取り組みについて感じたことをのべよ。

・使える人は、使えるが教師の
誰もが使える方法ではない。

2*) 今日の授業で、ポイントと思ったことをのべよ。

・ ICTを使っているから理解度が
上がった。と勝手に思いこまない

■教材・板書計画、評価の観点・規準等

平均変化率
・ 極限を取るときに2点の差
・ 対象となる点の周囲を拡大したときの
周囲
→ 感覚・知識ともに評価

■工夫した点、出典等

出典 教育ICT活用実践事例集

■模擬授業を実践してみて感じたこと、わかったこと

2**) 今日の授業で、気づいたこと、感じたことをのべよ。

良くなるであろうと思われる
「情報」を通じた教育方法が
多岐に渡っており、どれを重視するかを
国が早期に決める必要があると思った。

確認問題04

